

For the town meeting

July 4th, 2009

全国的に、まだあまり知られていないようですが、青森県弘前市には、前川國男の建物が、8棟現存しています。ル・コルビジエのもとで学び、帰国直後の昭和7年に建てられた木村産業研究所から、市役所・市民会館・博物館・最晩年の斎場など、8棟のうち6棟が市の施設と言う事もあり、日々市民に愛着を持って使われています。市民会館は、築後45年たった今もきれいに管理され、弘前公園の一角に悠然と佇み、風に揺れるケヤキの中で、コンクリート打ち放しとは思えない、温かささえ感じさせてくれる建物です。市民はここで行われるコンサートや講演会等に出かける時には、心が踊ります。

前川國男の建物が、なぜ弘前の街で今なお使われ続けているのでしょうか。

母親が弘前出身と言う事もあり、一連の作品に力が入ったのか？と私は個人的に考えたりしていますが、それより一つ一つの作品が、この街に住んでいる人たちの意に沿った建物だからのような気がします。建物はそれが、どんなに著名な建築家の設計でも、使うのは、一般の市民です。建築家が、その人たちの生活と文化をイメージ出来れば、違和感なく生活の中で使って、大切にされるのではと思います。

弘前市の斎場は、街の西にある33の禅寺の奥にあります。遙か西に、昔から地元の信仰を集める霊峰、岩木山（いわきさん）を臨み、杉山とりんご畑に囲まれた斎場は、津軽の人間が安心してあの世に旅立てる、魂を預けられる荘厳な場所です。そこに住む人間への深い理解と愛情があつての作品だと思います。“私もここで焼かれたい”と言った、来訪者もありました。

世田谷区庁舎は、弘前にとってもゆかりの建物です。

昭和33年、当時の藤森さとる弘前市長が、市庁舎建築にあたり上京し見学したのが、世田谷区庁舎です。庁舎を見て市長は、“近代的な感覚のうちに何ともいえぬ朴訥、いや素朴さがある”と、前川さんに設計を依頼したそうです。3年前、初めて区庁舎を見学しました。が、正直ショックでした。建物の外見を見た時、弘前の市役所や市民会館にとっても似ていて、姉妹・兄弟のようだと、親近感を持ちましたが、内部が期待に反しました。建物は、管理する人間でいかようにも変わると、経験しました。藤森市長自ら依頼した市庁舎や市民会館等はその後、弘前市によって現在まで、大切に管理され市民に愛されています。老朽化によりメンテナンスに莫大な費用が投じられていますが、なんとか持ちこたえています。

私たちの会は、“前川國男の建物を大切にする会”と言います。

一般市民の団体ですが、命名の時、単に建物を守る、とか保存する、のではなく、大切にするということを、キーワードにしました。前川建築を知ってもらうために、レクチャー・ツアー・講堂の椅子補修等の活動を続けています。大切にされる建物は地域の財産です。弘前の8つの建物はそれぞれの建物にストーリーがあつて、それは土地の人間の暮らしと切り離せないものです。これからも、弘前にある前川建築をこころから愛し慈しむ団体でありたいと願っておりますし、世田谷区庁舎も長い歴史の中で、区民の皆さんのよりどころだったのではないのでしょうか。兄弟・姉妹との別れは辛いです。

前川建築が蘇り、新しい力をもらって未来に羽ばたく事を強く願っています。

前川國男の建物を大切にする会 代表 葛西ひろみ